

会員の皆様へ
おはようございます。この度は、花北地区コミュニティ協議会会報「こぶし」に登場する花北地区の樹木について、改めてお話しします。

一つ目の樹木は、「クヌギ※(1)」です。クヌギの植生は岩手県と秋田県が北限改めて感じます。

10年前の大震災の辛い記憶がまだ残っている中、今度は目に見えないウイルスに脅かされ、コミュニティ協議会の活動も中止や延期を余儀なくされるとともに、会館利用につきましても様々な制限で皆様には多大なご迷惑をおかけしております。「不要不急な外出は控えましょう」は都会の人混みのなかの話であり、自然豊かな我が花巻では密にならなければ、大いに自然に出来るべきだと思つております。

いつも樹木の話で恐縮ですが、普段見ているはずが、関心を持つて見ないと記憶に残りません。いくら見てほしいと注意書きやポスターを張つても、無駄になることが多いのも同じだなど改めて感じます。



身近な散歩での発見

花北地区コミュニティ協議会 会長 高橋 修

で南に多い木です。花北地区の人であれば、ほとんど近くを通つて見ているはずです。言われて初めて気がつくと思います。今は道路が新しくなったために少し遠くなりましたが、桜台小学校に登る坂道の旧道脇に大きくそびえ立つていて木です。他の場所を調べてみると、桜台小学校の体育館の東側や鳥海神社のフジツルが絡まつていて、木、浅沢の県道の坂の途中などにも同じくらいの大きさの木や、他にも花巻神社の境内や桜台小学校の西側の土手にも少し小さなものが生育しています。

まずは、7月15日発行予定の会報3号の原稿執筆依頼、編集等、発行準備作業に取りかかることとしております。研修バス旅行など、今後の予定事業につきましては、新型コロナウイルス感染が県内でも増加しているコロナ禍にありまして、いろいろな予定事業が制限を受けているなか、延長、中止などとならないよう願つてているところであります。今後、協議検討していくこととなると想っています。

その後、令和3年度の総務企画部会の事業について協議し、予定どおり、会報「こぶし」30号、31号、32号を年3回発行。部員全員が編集委員となり、それぞれの発行号数ごとに編集長を選任して、役割分担のうえ編集発行にあたることを確認しました。

会報 こぶし

発行 花 北 地 区 コ ミ ュ ニ テ ィ 協 議 会
編集 総務企画部会



※(1) クヌギ
※(2) ブナ

さて、5月18日に第1回総務企画部会を開催し、はじめに役員の選出を行い、副部会長、書記が選出され部会の体制が整いました。総務企画部会もそれぞれの専門部会と同じく、11行政区の運営委員各1名と部会長の12名で組織されています。



今年度から花北地区
コミュニティ協議会、
総務企画部会長を担当

◆活力ある住みよい 地域づくりに向けて

新役員紹介

小舟渡行政区の駿河雅春と申します。コミュニケーション協議会は初めての経験であり、至らないところがあると思いま

て、地域情報、地域課題など役立つ情報等を皆さまより提供いただき会報に掲載したいと考えていますので、よろしくご協力をお願いいたします。

◆地域安全部会の活動について

地域安全部会部会長 松田修一

向夏の候、木々の深みも増し夏めいて参りましたが如何お過ごしあれども、地区的皆様には当部会に対してもご協力を



頂きありがとうございます。

この度、地域安全部会長を拝命いたしました四日町二丁目自治会の松田と申します。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

コロナ禍

で大変厳しい状況に置かれていますが、この状況が一日も早く解消され平穏な日々を取り戻せるよう心から願っています。

さて、当部会の主な活動は、皆様が安全で安心な日常生活ができるよう各地区から選ばれた運営委員で構成されています。

① 防災については東日本大震災の後、毎月11日を防災の日とし11地区自主防災会と当部会が花北振興センターから防災無線で各地区の防災用携帯無線機設置者へ交信訓練を実施しています。これは実際に災害が起つた時に各地区的情報収集等に役立つたからです。

② 防犯については、防犯パトロールを地区民と一緒に活動していると考えています。



令和3年度第1回部会会議

③ 交通安全について

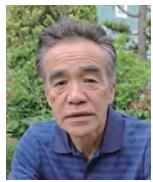
交通安全については、交通安全施設関係の点検（カーブミラー等）。花北地区の危険な場所や道路の把握をする為、私自身が考えているのは地区の巡回を定期的に行つていただきたいと思っています。

④ 防災対策の一環として防災訓練の実施や救急救命セミナーを消防署と連携して職員を講師として招き開催したいと考えております。

新前の部会長ですが、地域の皆様のご協力を得ながら活動していきたいと思いつつのでどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

末筆ながら、皆様の益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

◆明るい地域づくりにどうじりしょ



生活環境部会 部会長 中園 敦一

コロナ禍、イベント・

行事が中止となる中、

計画通り、地域活動で奮闘しているのが生活

環境部会です。私はこれまで自治会活動を通して、花北コミュニティ協議会に係わって来ましたが、この度、初めて

部会長として運営に携わることにな

りました。5月初めの部会会議に参加

に係わって来ましたが、この度、初め

に理解され、心強くも思いました。

私は鹿児島で生まれ育ち、関西で20年

間過ごした後、阪神大震災の年に家族で移住し、現在の星が丘一丁目に住み26年が過ぎようとしています。趣味は

登山・マラソン・テニス他、アクティ

ブな性格です。岩手と故郷鹿児島の共通するところは人情深さではないかと思っています。私たち家族も地域の皆

様の心温かい励ましと友情に支えられ、岩手の良さを実感しております。

さて、生活環境部会は花北地域の憩いの場である愛宕公園とグランドの清掃活動を中心に活動しておりますが、最近よく「SDGs」（持続可能な開発目標）という言葉を耳にします。具体的な目標（ゴール）は17項目に掲げられ、その中に「つくる責任・つかう責任」という目標があり、「廃棄物の発生防止、削減、再生利用および再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する」という具体的な目標が掲げられております。

今、私たち地域では「分別されないゴミの搬出や回収できない廃棄物の不法投棄など」なかなか改善されず、共通な課題となっています。生活環境部会活動を通して住みよい明るい地域の未来を築くため、地域の皆様の力と知恵をお借りしながら、一歩ずつでも解決の糸口を見出せればと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

◆令和3年度教育振興事業



教育文化部会 副部会長 鎌田 明彦

令和3年度教育文化

部会副部会長を務めさせていただきます、一

日市商店街で小さな花屋を営んでいる鎌田明彦と申します。

日頃から花北地区コミュニティ協議会事業運営、教育文化部会事業活動にご協力ご理解を賜り厚く御礼申し上げます。昨年度よりコロナ禍による社会情勢の変化に伴い、協議会並びに部会事業活動も、そして地域最大のイベント花巻まつりまでも開催参加できず、地域の皆様におかれましてもとても残念な一年の令和2年度となりました。今年度もなかなか変化なく、戸惑う社会情勢の中ではございますが、一日も早く終息に向かい笑顔溢れる地域、事業活動が開催できますよう願うばかりの今日この頃でございます。

さて、令和3年度の教育文化部会事業は、中村日出男氏を講師としてお迎えし7月には初夏の盆栽を楽しむ会、地域皆様による作品展示ステージ発表会の第28回花北地区文化祭、文化講演会として江戸初期の時代より大衆演芸落語演芸の花北寄席、そして市民の合意を表した市民憲章運動推進大会参加と事業の計画を立てさせていただきました。

コロナ禍により変化する不安定な社会情勢ふまえながら慎重に開催の検討をしていきたいと考えております。開催の際にはたくさんの方の地域の皆様のご参加を心よりお待ちしております。そ

して地域の皆様のご指導をいただきながら、松田部会長さんはじめ部会の方々と協力し合いながら部会事業活動を通じて、心豊かに笑顔溢れる花北地区の一助になれば幸いでございます。

◆事務局職員になつて



佐藤加津三

この4月から花北地区コミュニティ協議会事務局職員(事務局次長)となりました佐藤と申します。行政区は四日町三丁目です。

どうかよろしくお願ひいたします。コミュニケーション協議会にお世話になる前は、平成29年3月末の定年退職まで花巻市役所に勤務し、その後、この3月末まで釜石市役所に4年間、応援職員として勤務していました。花巻市役所では、水道事業所、税務課、広聴広報課、地域づくり課、生涯学習課、農業委員会事務局などで、また、釜石市役所では税務課で仕事をしてきました。

特に平成23年度に、花巻市役所に新たに地域支援室が置かれた際は、地域支援監として各振興センターを回り、各地区コミュニケーション会議のまちづくりを一緒に考えたり、地域計画づくりの相談に対応したりしたことを思い出します。また、生涯学習課では、まなび学園や石鳥谷生涯学習会館で、市民の皆さんの生涯学習活動の支援などの仕事をしていました。

仕事以外では、昭和50年代のランダナ（旅行用自転車）を2台所有していて、1台は散歩・通勤用に（冬期間を除いてほぼ毎日乗っています）、もう1台は時々長距離を走行したい時用に、と使い分けています。釜石市役所に勤務していた時に、何回かに分けて

ですが花巻と釜石の間を自転車で往復しました。現在も振興センターに時々自転車で通っています。今年も機会を見てあちこち走ろうと思っています。

また、中学の時に始めた楽器を、未だに続けていて、時々コンサートのようなこともあります。好奇心旺盛な性格のせいで、ほかにもいろいろあります。仕事以外のことはこのくらいになります。

これからコミュニケーション協議会の様々な仕事をしていくことになりますが、地域づくり課や生涯学習課のことやこれまでの様々な経験を思い出しながら、少しずつ慣れていくこうと思いますので、皆様の指導をよろしくお願ひいたします。

地区だより

四日町二丁目一区

クラ・ゼミ花巻校の活動

クラ・ゼミ児童指導員 高橋花実

こどもサポート教室「クラ・ゼミ」

花巻校は平成31年3月、四日町二丁目一区に開校しました。以来、地域の皆様のご協力により、事業を続け、開校3年目を迎えることができました。

「クラ・ゼミ花巻校」は、発達に課題を抱え、特別な支援を必要とするお子様を対象とした障がい児通所支援事業所です。利用対象年齢は、2歳頃から18歳です。

クラ・ゼミ花巻校の特徴は、ご本人



みんなで楽しく運動

と保護者様と密なコミュニケーションを重視していることです。ご本人様、保護者様や学校等の様子、他のサービス機関の情報等を踏まえ、個別療育・支援の内容を考えます。実際に支援会議等機関連携を図り、ご本人様にとつてより良い療育の在り方を考えます。その上で、学習支援、生きる力、対人関係を良好に保つ力等、お子様一人ひとりの状況やニーズに合わせた、療育・支援をマンツーマンで行います。

職員は、保育士、教員免許取得者、作業療法士、精神保健福祉士、社会福祉士と、専門資格をもった職員が多角的な視点でお子様の成長と発達のための支援を行います。

コロナ禍に対応した新しい試みとして、通常の個別療育・支援に加え、インターネットを利用した遠隔支援も提供しております。今回、コロナ禍ではありますが、5月に開催した「こどもサッカーキャラッシュ」の様子をお伝えします。

参加したのは、児童5名と、ボランティア、コーチ、職員の計11名。ボランティアに、大学生のサッカー選手2名が参加しました。ドリブル、シュート、パス、体育館いっぱいボールを追いかけ、みんな汗だくでした。子ども対大学生のミニゲームでは、お子様方のシュートが決まるとき保護者様

から大きな拍手が送られました。

クラ・ゼミ花巻校がお子様、保護者様に安心して楽しく過ごせる居場所ですので、「こどもサポート教室『クラ・ゼミ』花巻校」をよろしくお願ひいたします。

「地域福祉に関するアンケート」より

四日町二丁目 金澤栄一

コロナ禍で、地区だよりとして紹介するような事例が無い中、今回は、昨年、社協花巻支部が各地区に呼びかけて実施した標記アンケートを取り上げ、あくまでも私見であることをお断わりします。

コロナ禍で、地区だよりとして紹介するような事例が無い中、今回は、昨年、社協花巻支部が各地区に呼びかけて実施した標記アンケートを取り上げ、あくまでも私見であることをお断わりします。結果から見えてくる地域事情に触れてみたいと思う。

その地域事情とは、世帯の核家族化、高齢化がここまで進んでいるのかという実情である。当行政区の世帯数は約190。構成比を見てみると、人員構成は、1～2人世帯が全体の60%弱、3人世帯まで含めると、実に、80%近くを1～3人という少人数世帯が占めていることになる。一昔前まではごく普通だったように思う大人数の三世代同居世帯は、今では折りり数える程度でしかない。年代構成については、感覚的に予想していた通り60代以上の高齢者世帯が70%を占めている。古希になる身の若かりし頃の家庭像からは隔世の感さえする世帯の現状であり、しかもピークは数年先という現在進行形の実情である。

では、この核家族化、高齢化した世帯に何か問題はあるか、無いか?、平穏無事に日々が過ぎていき、特段、問題が無いようにも見える。勝手に懸念するのは、従来は家庭内で収まっているが、解決できていた事が出来なくなつてきてしまはないか、ということである。買物、通院といった日常生活はもとより、今冬のような大雪への対処、ひいては、いつ起るか分からぬ災害発生時の身の処し方まで考えれば、今は何とか踏ん張っていても先々への不安を抱く世帯は少なくてないのではないか。

解決策はある

サービスを有効に活用するのは勿論だが、身近なところで、人との繋がりで解決できることがあるのではないか。隣近所同士の繋がり、地域コミュニティとの繋がりで、家族だけでは解決できない事の多くをカバーできるのではないか。孤立することなく、人と人の繋がりの大切さを改めて認識する必要があるのでないだろうか。



となり近所との交流



花北学童クラブと松園学童クラブが合併し設立されてから、今年で21年目のスタートを切りました。

学童クラブは、保護者が就労等で昼間家にいない児童に対し、放課後及び長期休業等家庭に変わる生活や遊びの場を提供し、児童の健全な育成を図る目的で設立されました。

運営は、運営協議会が最終決定機関ですが、予算案の策定や管理、お楽しみ会や夕涼み会等の行事、問題発生時の取り組み、避難訓練の安全対策等は、保護者が主体となり計画しております。役員会が毎月開催され、具体的に話し合い実施されています。

運営に掛かる費用（補食費、設備関係費、人件費、保険料、教材費、行事費等）は、保護者からの運営負担金、国・県・市・花巻市福祉協議会からの助成金等で賄われております。

学童クラブは、異年齢集団の活動を中心になります。学習習慣を身に着けようとする自主学習、躰、物事の善悪、人との関わり方、優しさや思いやり等を共同生活や諸行事、遊びなどの幅広い活動を通じて、日本の文化に興味と関心をもつて欲しいと願い、平成25年春に新築された花北振興センター和室でこども教室を開きました。桜台小学校の1年生から6年生が十数人集まりましたが、ゆかたは「中裁ち」に「本裁ち」と体型や身長により着る方法が違いますので、数人のスタッフの手も借りながら始まります。裾合わせ、衿の合わせに気をつけ紐をしっかりと結びます。次は帶を結んでいきます。何度も何度も練習をして上手にできると皆、いい笑顔で嬉しそう。ゆかたにも慣れてきたなら

い活動を通して、少しでも身に着けられる一助になればと、指導員は日々奮闘しております。

児童は、自立した社会人になるために様々な学習中です。自分で決められず迷ったり、悩んだり、間違つたりします。そういう時こそ少し時間を取り、頭で考え、心で感じる対応に努めたいのです。そのためにも、学校や保護者の皆様と学童が連携・協力を図り、児童が成長するため情報を共有したいものです。

運営協議会も、指導員、保護者会と共に児童の成長に協力したいと思っています。

お辞儀の種類と仕方、物の受け渡し、お箸の使い方、風呂敷の扱い方等、毎日の生活の中で約に立つこと、皆が気持ちよく過ごした目に大切な「思いやりの心」や「友達と和する心」。年中の行事のお話では、「感謝の心」「尊敬の心」と回を重ねる内で豊かな心や感性を育んでいけたらと思います。

11月の成果発表会にはお家の方達におもてなしの心でお茶をさし上げて、写真撮影をし、ゆかたと帯を丁寧にたたんで終了します。

今までには日々の文化は祖母から母へ、母から娘へと伝えられてきたものです。時代と多様な生活の変化により子供達へ伝えられなくなっている。自分でも着ることによって個性や能力の発見につながるかもしれません。

令和3年度は7月1日より木曜日、午後3時半から5時まで無料で開催しています。ゆかたは貸し出しもしますので、体験を楽しんでみませんか。



おもてなしの心でお茶を

活動紹介

▼21年目のスタート

桜台学童クラブ運営協議会会長 安藤歳勝
桜台学童クラブは、平成12年2月に

◆編集後記

皆様からのご協力で「会報こぶし第30号」の発行ができました。

深く感謝いたします。

編集担当 戸來